

# 隨泉寺寺報

平成16年(2004年)3月号 第403号

082-892-0217 <http://ww41.tiki.ne.jp/~tetunari4/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

春季彼岸会法座

講師 品秀寺前住職 柳父正信師

講題 「七祖とお念仏」

世の常に 聞けば苦しき 呼子鳥 声なつかしき 時に  
はなりぬ 大伴坂上郎女の歌一首

天平4年3月1日に佐保の宅にて作る

暖冬と毎年いっているような気がしますが、今年の暖かさは少し異様です。春はすぐそこで、桜の花も咲くのではないかという陽気です。カッコウも晩春に鳴き出す鳥です

が、もう鳴き声が聞かれます。その声が懐かしく感じられる時節になりました。「呼子鳥(よぶこどり)」とは、カッコウなど、鳴き声人が呼ぶように聞こえる鳥の類。「昔の人は、『あこ、あこ』と、幼子を呼び立てゝ鳴いてあるものと聞いて、傳説への聯想から、憂鬱な聲として聞いて来たものである」(折口信夫「女流短歌史」)

山鳥の ほろほろと鳴く 声きけば ちちかとぞ思ふ

ははかとぞ思ふ 行基

山鳥の鳴く声を聞いて、懐かしい人を思い出す人もあるでしょう。

## 3月の法座予定

3月14日昼席午後1時より……春季彼岸会法座 仏婦新旧役員会

3月14日夜席午後7時半より……出張法座 鴨の巣 浜田氏宅

3月15日朝席午前10時より……春季彼岸会法座

3月15日昼席午後1時より……春季彼岸会法座

4月 3日午後3時半より……門信徒会新旧役員会 花見



## ひな祭り

ひな祭りをイメ - ジすると当然のことながら、お雛様を思い浮かべます。

10世紀以上もの歴史のある雛人形は、日本独自の文化遺産です。「源氏物語」や「枕草子」などにも登場する「ひいなあそび」などからも、日本らしさの歴史を感じます。桃の節句は「上巳」(じょうし)は、「じょうみ」とも呼ばれ、3月の初めの巳の日をいいます。

この日、水辺に出て不祥を除くための禊(みそぎ)祓(はらえ)を行い、宴会を催してお祝いをしました。

古代中国では、初めは巳の日でしたが、魏の時代より3日となったそうです。

中国でのこの行事のいわれは、けがれを祓い清める招魂の意味が強かったようですが、日本独特の祓(はらえ)の思想と結びつきました。

日本でも「日本書紀」に「3月3日が上巳の節句」との記述が残っています。

祓(はらえ)の道具として人形(ひとがた)がありました。

「延喜式」にも記述されていますが、人形(ひとがた)に不浄を託して川や海に流して、災厄を祓うという風習がありました。古代からの日本の俗信仰として、自分の罪を人形(ひとがた)に託し、肌身にすりつけ、息をふきかけ、これを水に流すのです。昔は子供が無事に育つことは大変なことだったのでしょう。

この罪を祓う思想は女性を罪深き、穢れた存在として、やがては神の前には出て行けないものとして発展していきました。女性を不浄として考える、俗に言うところの赤不浄、白不浄と考えられるものです。しかし考えてみると変ですよ。女性がいなかったら子孫は続いていかないし、出産が不浄なら子供は誕生しません。今ではひな祭りというのは優美な風習ですが、なにやらおどろおどろしいものを感じます。



## 婦人部新旧役員会

門信徒会婦人部の新旧役員会を開催します。15年度の決算や16年度の行事予定や予算を審議していただきます。3月の14日彼岸会の法座の後、引き続き開催します。よろしくお祈りします。

## 御礼

永代経懇志 拾萬円 合原 豊殿 故 合原 ミツコ様 特別永代経志として

特別懇志 貳拾万円 川野 等殿

平成 16 年 1 月 27 日

延 義則

## 亡き父を偲んで

私の父は、大正 6 年 9 月生まれの満 86 歳にて平成 15 年 10 月 18 日 14 時 34 分に他界いたしました。肝臓癌でした。80 歳を超えた高齢ですから癌の進行もそんなに早くはないと思っておりましたが、意外に早く 2 月に告知を受けてから約 8 ヶ月の寿命でした。来年は「米寿」の祝いをしようといっておりましたのに残念なことであります。さて、振り返って私の知っている親父を偲んでみたいと思いますが、改めて考えてみますと私の知っていることは極一部分であり、むしろ知らないことの方が多いことに気がつきました。生まれて 63 年余り私を見守ってくれた親父であり、いくら感謝しても足りないほどお世話になったと思っております。

私が生まれてまもなく親父は出兵し戦争を体験しました。終戦後、私が 5 歳過ぎたころ親父が戦争から帰ってきました。抱っこされて大きくなったわけではない私にとってはどこか遠慮な親父の存在であり、親父の背中に髪の毛が落ちていても、背広のどこかが汚れていても親父が怖くて親父の体に触れることも忠告することもできなかった幼年時代の頃を思い出します。親父の仕事はまさに良き時代の旧国鉄にお世話になり、そういった仕事面からも堅物であったのかもしれませんが。私も国鉄に就職しましたので仕事の面からも大先輩であり指導なり薫陶を受けたわけであります。私には絶対に弱みを見せたことのない親父であり、また、そういった親子の付き合いの中で長男の私に対してはいつも「袴（かみしも）」をきて冗談のない仕事一途で硬派な親父でありました。遊びでは、唯一、ゴルフをしておりました。一度でいいから一緒にラウンドしたかったなと思っておりますが、かなわぬ夢となってしまいました。もっと若いうちにチャンスはなかったかと反省しております。親父は、煙草もすわな

いし酒を一滴もやりませんでした。一杯やって仕事でも、遊びでも、人生論でも何でもいいから心行くまで議論してみたかった。これもかなわぬ夢となってしまいました。

いまさら私は何を言っているのだろう。昔の「いろはカルタ」に「親孝行しようと思えば親はなし」というのがありますが、正にそのとおりであります。

これからは、浄土真宗の生活信条に沿ってみ佛に導いていただきながら生きていきたいと思っております。

合掌

## 人間はみんなすばらしい

カレンダー 3 月号 東井 義雄

今、私がこれを書いている頭の上に 30W の蛍光灯が二つ重なったのが下がっております。でも、光は放っておりません。スイッチが入っていないからです。下がっているひもを引きました。パッと明るくなりました。光を放つしくみに問題はなくても、スイッチを入れなければ光は放ちません。

人間も、これと同じようなものではないでしょうか。何ひとつ欠陥のない体に生まれついているのに、一向、光を放たない人間があるものです。どうも、スイッチの問題ではないかと思えます。

それで、ある年の卒業生に「心にスイッチを」ということばを贈ったことがあります。

心にスイッチを

誰だい？

ぼくは頭はわるいし、

ダメな人間かもしれないなんて心配しているのは？

ダメな人間なんてあるものか、

人間は みんな すばらしいんだ。

何でも見えるすばらしい目を

君はもっているじゃないか。

何でも開けるふしぎな耳を

君はもっているじゃないか。

覚えることだって考えることだってできる

ふしぎなはたらきをやってのけることのできる頭が、

君のためにちゃんとあるじゃないか。

つまらないのは

このすばらしい君のすばらしさに気付かず

自分つまらないなどと考えている、

君のその心だとは思わないか。

しくみのりつばな電球でも

聞こうという心のスイッチが入らないと耳も 耳の働きをしてくれない。

しくみのせいじゃないんだ、

スイッチのせいなんだ。

